平成 29 年度 非核都市宣言平和事業実行委員会
第３回議事録（要旨）

日　時：６月 13 日（火）午後６：15～８：00
会　場：かたらいの道市民スペース
出席者：委員 12 名（深田委員、吉田委員、植村委員、小島委員、牛田委員、中里委員、柴田委員、中島委員、北山委員、島津委員、高木委員、小餅委員）
事務局 ３名

１　開会
・今回初参加となった委員の自己紹介

２　議題
（１）憲法月間記念行事を振り返って【資料①】
・事務局より、アンケート結果について説明。
【委　員】スピードが早くてついていくのに精一杯だったが、よくわかった。
【委　員】もっと若い方に聞いてほしい。毎回の課題だが、若い人が聞く方法はないか。
【委　員】昨年と比較すると若い人が多かったように感じる。
【委　員】これから先のことを考えれば、20 代、30 代の若者に聞いてほしい。
【委　員】どのように宣伝すれば若い人が関心を抱くか。
【委　員】若い人はイベントや、塾、習い事で忙しいようだ。
【委　員】特に大学生に聞いてほしい。
【委　員】憲法はだれが守っていくのか、ということを若い人たちがどれだけ考えているのか。
【委　員】日本がアメリカと戦争した歴史を知らない子どもがいる。
【委　員】武蔵野市では熱心に教えているほうではないか。小学校では２年に１回演劇に行ったり、中島の跡地を見学したりしているそうだ。
【委　員】学校でイベントを行うとき、ときどきアメリカと戦争した歴史を知らない学生がいる。
【委　員】小学校で講演をするときは、悲惨な話はしないように頼まれることがある。
【委　員】どの程度まで話せばいいのかわからない。
【委　員】戦争はゲームだと認識している子どももいる。戦争で亡くなった人が生き返ると信じてしまっている。小さい子どもほど、話すのが難しい。
【委　員】70 年前のことだから、意識的に教えていかないといけない。自分たちが子どもの時に置き換えて考えてみると、明治時代にあたる。当時の子どもたちにとっての日清、日露戦争と、今の子どもにとっての太平洋戦争では、意味が大きく違う。子どもたちに意識的に教えていかなければ、当時のことはわからない。
【委　員】今までずっとそうだが、歴史の授業は古代史から始まる。現代を学ぶときには、授業時間がなくなったりする。現代史から始まって、どんどん遡って学ぶ国もある。
【委　員】現代史から始めたらいいのではないか。

【委　員】若い人は現代史について深く教育されている感覚がないのではないか。私自身も、中学校などで第二次世界大戦について、歴史の先生から深く聞いた記憶がない。
【委　員】戦争に関する教育をどうにかしたい。
【委　員】進学を目指している私学や、附属の学校で方針が異なる。附属校の場合、現代史に時間をかけることもできる。学習指導要綱が新しくなり、歴史総合という日本史と世界史を融合させたものとなる。政府寄りの人たちは日本史に重点おき、歴史学者は抵抗している。教える先生がなかなかいない現状。現代社会という科目がなくなって、公共という科目になる。憲法を教えるから道徳を教えるというように変わってきている。時代の変化を受け止め、学校の先生に任せず関心を持つべき。教育基本法の目指すものが、「人格の完成を目指す」から「人材育成」を中心としたものに変化してきている。教育の現場は、受験からの縛りや、現場では先生がものを言えない環境がある。これは深刻な問題として受け止めなければいけない。
【委　員】自分が中学生の時には、民主主義という授業があった。
【委　員】伊藤先生の講演は非常によかった。日本国憲法は個人を尊重してくれる、個人が生きることを応援してくれるものとおっしゃっていたことがよかった。家族や国ではなく、ひとりひとり違った個人を実現していくように生きていくことを応援するのが憲法であるという観点がよかった。憲法に関する講演をいくつか聞いてきたが、今までで一番よかった。
【副委員長】アンケートにも、わかりやすかったという声が多くみられる。
【委　員】あれだけの内容を時間内に話すと早口になってしまう。
【委　員】録音はしてあるのか。
【事務局】お伺いしたが、お断りされてしまった。

（２）夏季平和事業、平和の日イベントについて【資料②】
①夏季平和事業
・事務局より、事業案について説明
→桜キッズは日程的にジャンボリーと重なっているが、ジャンボリーに参加しない子どもがチームを組んで参加してくれる。
【委　員】時間的にはどのような感じになるのか。
【事務局】桜キッズさんに 15 分程度、DVD が 27 分。前回をみると小さい子どもが多いため、長すぎると飽きてしまう可能性がある。まだ時間があるので、プラスアルファーの部分については考えていければと思う。
【副委員長】桜キッズさんの予定にもよるかと思う。
【委　員】前回２作品用意していたが、今年も同じような感じで考えればよいかと言われたので、そのようにお答えした。ジャンボリーと重なることから、桜キッズさんは手薄になると考えられる。
【事務局】桜キッズが 15 分程度と考え、プラスアルファーの部分をするかしないか。
【委　員】「つるにのって」は小さい子どもにもわかりやすく、明るく良い映画だと思う。
【事務局】今日決めていただいてもいいし、次回までででも大丈夫。
【副委員長】桜キッズさんの時間や演目によるのではないか。

②平和の日イベント
・事務局より、事業案について説明。
【委　員】午前中のイベントで、短い時間であっても委員長や柴田さんの戦争体験についてお話してもらいたい。
【委　員】戦争を体験しているとつい力が入って話してしまう。
【委　員】どこかで体験談をいれることは必要だと思う。
【事務局】前回は島津さんにお話しをいただいた。
【副委員長】お話していただきたいという意見があがっていますが。
【事務局】短いお時間でも結構なので、ぜひお話いただければと思う。
【委　員】長崎派遣に参加した子どもの発表はあるのか。
【事務局】午前のイベントで発表の場を設ける予定。
【委　員】前回はその発表がすごく良かった。
【副委員長】いかがか。
【委　員】島津さんのお話にはいろいろな要素が入っているので、お聞きしたい。最初の空襲のときのお話をしていただければと思う。
→島津委員ご了承。
【副委員長】よろしくお願いします。
【委　員】講師案について、今日決めなければいけないか。
【事務局】お断りされてしまうと、今から他の案を考え直すため、来月だと時間的に微妙になってしまう。
【委　員】７月にずれ込んで決めたこともあった。藤田氏を講師として迎えたときは、７月の末まで交渉していた記憶がある。
【事務局】 長崎に派遣する子どもと面接をしていると、中には武蔵野市で起きた歴史について知っている子どももいるが、多くの子どもは飛行機の会社があってそこに爆弾が落ちたという程度の認識、もしくは全く知らないという子どももいた。市制 70 周年というこの機会に、改めて先生に話していただければと思う。武蔵野市内に住んでいても、多くの子どもはかつてここで何が起きたのかを本当に知らないのではないか、と感じた。この機会にぜひお話しいただければと思う。
【副委員長】ご都合はいいかがか。
【委　員】予定は休みの日だから大丈夫。今までの講師は渡辺えりさんといったビックネームの方々だったので。否定する気はないが、ふるさと歴史館からも講演を依頼されていて内容が重複してしまう。イメージ的にはアーサービナードさんだったが、日程が埋まってしまっていたため、実現は厳しい。
【委　員】11 月のイベントは、日本全体と言ったもっと広い視野で見る年と、今年のように武蔵野の空襲といった武蔵野に特化したイベントを開催する年で、行きつ戻りつやっていければいい。武蔵野に特化して、となるとぜひ牛田先生にやっていただきたい。
【委　員】もっといい案があれば、というのが意見。
【副委員長】集いの方は、島津さんのお話をプラスする方針、平和の日イベントでは代案があれば別だが、牛田先生の講演ということでいいか。
→賛同。

（３）その他
・青少年平和交流派遣について
【副委員長】長崎に派遣する子どもは何人か。
【事務局】８名。長崎派遣の前に学習会を行うことになっている。
・委員より「武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会フィールドワーク」について説明（配布資料）
【委　員】模擬原爆の中身はどのようなものなのか。
【委　員】約２トンという非常に量の多い火薬が詰まった爆弾。１トン爆弾はこのあたりでも落とされていた。模擬爆弾は全体で 4.5 トンぐらいあり、そのうち TNT 火薬が２トン含まれている。模擬原爆は投下訓練としての役割があった。原爆は大きいため、落とすのが難しい。4.5 トンもの爆弾を投下すると、飛行機が急上昇する。落としたら、自分たちが被爆しないように逃げるのだが、その時の軌道のデータを取るなど、旋回の訓練をするために、実物の火薬が入った爆弾を使って全国約 50 カ所に落とした。東京では、ここの他に７月 20 日八重洲に落とされている。内田百閒が勤務先である八重洲に向かう途中に見た模擬原爆について詳細に書き記している。７月 29 日には中島を狙って投下したが、逸れて柳沢に落下したとされている。落とした飛行機が長崎に落とした飛行機だったということがわかっている。このような事実を伝えていかなければならない。
【委　員】スイッチを入れた人が被爆して死亡したという話を聞いたことがある。落とした本人も被爆するものなのか。
【委　員】被爆はすると思う。逃げると言っても、炸裂する前から既に放射能は出ていると聞いた。その時点で、ある程度は被爆していると思う。以前 NHK が放送していた原爆が炸裂する 10 秒間についての番組があったので、それを見ればある程度わかる。
【委　員】きのこ雲は落下してから発生したものなのか、空中で発生したものなのか。
【委　員】本物の原爆は、スカイツリーほどの高さである 500～600 メートルの空中で炸裂するが、模擬爆弾は地面で爆発する。爆発した瞬間は何千度という波及が生じる。原爆瓦など、広島の資料館を見ればわかる。本館が閉鎖されてしまって、蝋人形が見られなくなってしまった。
【委　員】あまりに悲惨だからと聞いた。平和な時代にふさわしくないというが、もっと見てほしい。実際に起きたことを、多くの人に知らせてほしいと思う。署名もしたが、やっぱりだめだった。
【委　員】何メートルぐらいの高さで飛行機が飛んでいたのか。
【委　員】正確にはわからないが、2000～3000 メートルではないか。そんなに高い高度ではないと思う。
【委　員】B29 が瀬戸内海から飛んできた時に空襲警報が鳴っていたが、島根の方へ飛んでいったから空襲警報が解除された。Ｕターンして戻ってきた時、空襲警報が鳴らないうちにバーンと爆発した。Ｕターンしてきたその時の様子を実際に見ていた。落下傘も見た。
【委　員】落下傘は実際に落ちてきていて観測機だったとされている。
【委　員】３つ落ちていった。怖かった。
【委　員】落ちていくところを見たのか。
【委　員】落ちていくところを見た。当時宇品にいて、８時から朝礼をしていた。四国

の方面から３機飛んできて、警戒警報が鳴ってすぐに防空壕に避難した。その後解除になり出てきたら、３機Ｕターンして落としていった。怖かった。その時は何が起きたのかわからなかった。家に空いている部屋があったから、兵隊３人の面倒を見ていた。あとで聞いた話だが、いつもと違う新型爆弾が落ちるということは知っていたようだ。
【委　員】見える範囲にいて助かったのはどういった状況だったのか。
【委　員】宇品という少し離れたところにいたため。
【委　員】落下傘は観測用のものだと思う。温度や気圧を計測していたもの。原爆自体は4.5トンもあり、落下傘で落ちるようなものではない。原爆は根本的に普通の爆弾と作りが違う。
【委　員】ピカドンと言われていた。ピカっと光ってからドーンと爆発した。新型爆弾だとは言っていたが、原爆がどういうものかが分かったのは戦後だっただろう。戦争が終わったこともよくわかっていなかった。重大発表があると言われ集まったが、ラジオがよく聞こえなかった。なんて言ったのか周りの人に聞いてみると、「一層奮励努力せよ」と伝えられた。
【委　員】ラジオは今と違うから、えらい聞きにくかった。
【委　員】おかゆすすって、おしりをひっぱたかれて、ばかみたいに働かされた。
【副委員長】そういうことが二度と起こらないよう、このようなお話を子どもに伝えていかなければいけない。
【委　員】８月 15 日は雲一つない晴天の日だった。負けたとは認識していなかった。その日の夕方に日本が負けたことがわかった。庶務をしていたから、地方から来ていた兵隊が帰るのに必要な証明書を毎日書いていた。
・NHK のスペシャルで「日本空襲の全貌」という番組を作りたいということで取材にきている。勉強途中とのこと。
【委　員】放送日は決まっていないのか。
【委　員】決まっていないが、８月 15 日前後になるのではないか。どのような番組になるかはまだわからない。

・次回の委員会は、７月６日（木）午後６時 15 分～　かたらいの道市民スペースで開催する。

３　閉会